

第 39 回加齢医学研究所シンポジウム
東北がんプロフェッショナル養成プラン
(東北大学大学院医学系研究科)
合同シンポジウム

報 告 書

日時：2008 年 2 月 8 日

場所：仙台勝山館（仙台市青葉区）

目 次

- 1 . 合同シンポジウムと座談会の報告 ・ 1
- 2 . プログラム ・ ・ ・ ・ ・ 3
- 3 . ポスター ・ ・ ・ ・ ・ 8
- 4 . 参加者 ・ ・ ・ ・ ・ 9
- 5 . スナップ写真 ・ ・ ・ ・ ・ 10

合同シンポジウムと座談会の報告

東北大学加齢医学研究所癌化学療法研究分野
東北がんプロフェッショナル養成プラン分担コーディネータ
石岡千加史

がんは死亡率第1位の疾患で、わが国では一生涯のうち3人に1人ががんで死亡する時代を迎えました。がんは今や国民病ですが、その一方でがん診療の専門家が全国的に少なく、その養成が急務とされています。がん医療水準向上のためには、特に不足する放射線治療医、がん薬物療法専門医、緩和ケアなどがん治療の専門家の育成が不可欠であり、国のがん対策の1つである文部科学省の平成19年度予算・がんプロフェッショナル養成プランに、医学部を有する大学を中心に、医療系学部学科を有する大学が連携する全国18拠点の「がんプロフェッショナル養成プラン」が採択されました。この養成プランは、大学が協定大学と連携してがん専門医療人を養成する広域連携プランで、大学院を中心として、各大学の資源を生かした時間・空間を越える教育システムを構築し、都道府県の大学病院と多くのがん診療連携拠点病院が参加してがん医療人を育成するほか、大学、病院、自治体、職能団体が一体となって臨床試験・がん登録を推進する地域の枠組みを構築する計画です。

東北がんプロフェッショナルは東北大学を中心に、山形大学、福島県立医科大学の3大学連携のプランであり、3大学の大学院博士課程全てに新たに「がん薬物療法専門医」を養成するコースが設置されました。そこでこの合同シンポジウムでは、がん薬物療法の進歩と専門医養成のための大学腫瘍内科の役割について焦点を当て、第1部（第39回加齢医学研究所シンポジウム）では、急速に進歩している最近のがん薬物療法の動向について国内の腫瘍内科系講座の教授陣によるシンポジウムを開催しました。福田寛加齢医学研究所長の開会挨拶に続いて、第1部シンポジウムは貫和敏博教授（東北大）と張替秀郎教授（東北大）の司会で、分子標的治療薬をテーマに、最近の開発動向（石岡）、肺癌（秋田弘俊秋田大学教授）、大腸癌（吉岡孝志山形大学教授）、血液腫瘍（高後 裕旭川医科大学教授）についての講演後に、西條康夫教授（弘前大）ががん遺伝子治療について、佐々木康綱教授（埼玉医大）ががん薬物療法開発における課題について講演し、がん薬物療法の専門医が中心になって取り組むべきがん薬物療法の最近の進歩を把握することができました。

第2部は、菅村和夫東北大学医学系研究科長の開会挨拶に続き、がん薬物療法の先進国である米国から、上野直人博士（MDアンダーソンがんセンター）を招請し、米国における腫瘍内科医の役割について紹介され、日米の大きな違いが明らかになりました。また、この招請講演に引き続いて、秋田教授と石岡の司会、パネリストは前述の国内の腫瘍内科

系講座の教授に、矢野聖二金沢大学がん研教授（腫瘍内科）、柳原一広京都大学准教授（探索臨床腫瘍学）、柴田浩行東北大学准教授（腫瘍内科）の3名を加えて、パネルディスカッションを行い、大学腫瘍内科の在り方について活発な討論が行われました。なお、この第1部、第2部は仙台勝山館で開催され、県外からの参加者26名を含む大学やがん診療連携拠点病院などから計108人の参加がありました（資料参照）。また、第1部のシンポジウムについては、ビデオ収録し、平成20年度の大学院講義として東北大学インターネットスクール（ISTU）に掲載予定です。

この合同シンポジウム終了後、会場を秋保温泉・佐勘の会議室に移し、石岡の司会、西條教授、矢野教授、吉岡教授、佐々木教授、白尾教授、柳原准教授腫瘍内科系講座の教授・准教授陣に白尾国昭大分大学教授（腫瘍内科）を加えた出席者により「大学腫瘍内科の在り方」についての座談会を開催しました。この座談会では、前述の合同シンポジウム第2部のパネルディスカッションで討論された内容をさらに深め、大学腫瘍内科講座の在り方、現状と今後の課題について、教育、診療、研究の3つの視点から話し合われた。大学腫瘍内科講座の在り方について、当事者である講座担当教授によるパネルディスカッションや座談会は今回が初めての試みであり、その内容は月刊誌「癌と化学療法」5月号に掲載予定です。

最後に、第4部として福田所長、貫和教授、高後教授、西條教授、矢野教授、佐々木教授、白尾教授、吉岡教授、上野准教授、柴田准教授、大学院生の添田大司君と石岡が参加し「大学腫瘍内科講座の連携について考える会」（討論会）を同・佐勘の別室で開催しました。この会では、各施設における現状や今後の連携について話し合われ、当面年1回、「大学腫瘍内科の在り方検討会」として当番制で開催することになりました。なお、次回は埼玉医科大学の佐々木康綱教授が担当することになりました。合同シンポジウム、座談会、討論会と午後1時から夜10時まで大変盛りだくさんで忙しいスケジュールでしたが、講演者・討論者としての教授陣はもとより一般参加者も全国から多数集まり、大変有意義な企画でした。この場を借りて、開催に御協力いただいた関係各位に感謝いたします。

第 39 回加齢医学研究所シンポジウム
東北がんプロフェッショナル養成プラン
(東北大学大学院医学系研究科)
合同シンポジウム

日時:2008年2月8日(金)13時から17時

会場:仙台勝山館(仙台市青葉区上杉2-1-50)(電話022-213-9188)

第1部「わが国のがん薬物療法の課題と将来展望」

第2部「大学腫瘍内科の在り方」

2007年4月に施行されたがん対策基本法と同年6月のがん対策推進基本計画により、わが国のがん薬物療法の標準化とその医療水準の向上とそれを担う専門医養成は今や国のがん対策の重要課題に位置付けられています。そこで第1部では、急速に進歩しているがん薬物療法がん薬物療法(特になん分子標的薬)を取り上げ、その動向や臨床開発に関する諸問題について臨床腫瘍学系の教授を招請して御講演いただきます。第2部では、最近、全国の医学部に新設されはじめた腫瘍内科(または臨床腫瘍学)講座の在り方について取り上げ、その役割、現状と将来の方向性を探るため、特別講演として MD アンダーソン・がんセンターの腫瘍内科医・上野直人氏に米国における腫瘍内科医の実情をご紹介いただき、引き続いて、腫瘍内科系教授陣によるパネルディスカッションを行うものです。

主催者:

東北大学加齢医学研究所長
福田 寛

東北大学副学長・医学系研究科長
菅村和夫

東北大学加齢医学研究所教授
石岡千加史

東北大学病院がんセンター長
山田章吾

プログラム

総合司会(第1部・第2部):

柴田浩行 (東北大学加齢医学研究所 癌化学療法研究分野 准教授)

第1部 シンポジウム「わが国のがん薬物療法の課題と将来展望」

主催:東北大学加齢医学研究所

共催:東北がんプロフェッショナル養成プラン、橋渡し研究支援推進プログラム

後援:加齢医学研究所研究会同窓会

開会挨拶:

福田 寛 (東北大学加齢医学研究所長)

司会:

貫和敏博 (東北大学大学院医学系研究科 呼吸器腫瘍学分野 教授)

張替秀郎 (東北大学大学院医学系研究科 血液・免疫病学分野 教授)

講演1 最新の分子標的治療薬

石岡千加史 (東北大学加齢医学研究所 癌化学療法研究分野 教授)

講演2 肺癌の分子標的治療 進展と課題

秋田弘俊 (北海道大学大学院医学研究科 腫瘍内科学分野 教授)

講演3 大腸癌の分子標的治療 進展と課題

吉岡孝志 (山形大学医学部器官機能統御学講座 臨床腫瘍学分野 教授)

講演4 血液腫瘍の分子標的治療薬 進展と課題

高後 裕 (旭川医科大学医学部内科学講座 消化器・血液腫瘍制御学分野 教授)

講演5 がん遺伝子治療 進展と課題

西條康夫 (弘前大学大学院医学研究科 腫瘍内科学講座 教授)

講演6 がん薬物療法開発における諸問題

佐々木康綱 (埼玉医科大学国際医療センター 包括的がんセンター 腫瘍内科 教授)

(コーヒーブレイク)

第2部 シンポジウム「大学腫瘍内科の在り方」

主催：東北がんプロフェッショナル養成プラン

共催：東北医学会

後援：加齢医学研究所研究会同窓会、NPO 法人東北臨床腫瘍研究会

開会挨拶：

菅村和夫（東北大学副学長・医学系研究科長）

1. 招請講演「米国における腫瘍内科医の役割」

司会：

山田章吾（東北がんプロフェッショナル養成プラン統括責任者・
東北大学病院がんセンター長）

演者： 上野直人（米国テキサス大学 MD アンダーソン・がんセンター 准教授）

2. パネルディスカッション「大学腫瘍内科の役割」

司会：

秋田弘俊（北海道大学大学院 医学研究科 腫瘍内科学分野 教授）
石岡千加史（東北大学 加齢医学研究所 癌化学療法研究分野 教授）

パネリスト：

秋田弘俊（北海道大学大学院医学研究科 腫瘍内科学分野 教授）
西條康夫（弘前大学大学院医学研究科 腫瘍内科学講座 教授）
矢野聖二（金沢大学がん研究所 腫瘍内科研究分野 教授）
吉岡孝志（山形大学医学部 器官機能統御学講座 臨床腫瘍学分野 教授）
柴田浩行（東北大学加齢医学研究所 癌化学療法研究分野 准教授）
柳原一広（京都大学大学院医学研究科 探索臨床腫瘍学講座 准教授）
佐々木康綱（埼玉医科大学国際医療センター 包括的がんセンター 腫瘍内科 教授）

閉会挨拶：

山田章吾（東北がんプロフェッショナル養成プラン統括責任者・
東北大学病院がんセンター長）

第3部 座談会「大学腫瘍内科の在り方」

日時：2008年2月8日（金）18時半から19時半
会場：秋保温泉・佐勘 花月館 2階 蓬莱の間
（仙台市太白区秋保湯元字薬師28）（電話022-398-2233）

主催：東北がんプロフェッショナル養成プラン

共催：橋渡し研究支援推進プログラム

後援：NPO 東北臨床腫瘍研究会

テーマ：

1. 腫瘍内科学講座の設置とその在り方
（研究費取得、日本内科学会における位置付けなど）
2. 大学腫瘍内科の診療の在り方
3. 卒前教育における臨床腫瘍学講義
4. 卒後教育とがん薬物療法専門医
（幅広くがん化学療法を研修できる（臓器横断的）システムの必要性）
5. その他

司会：石岡千加史先生（東北大学加齢医学研究所 癌化学療法研究分野）

西條康夫先生（弘前大学大学院医学研究科 腫瘍内科学講座）

矢野聖二先生（金沢大学がん研究所腫瘍内科研究分野）

吉岡孝志先生（山形大学医学部 器官機能統御学講座 臨床腫瘍学分野）

佐々木康綱先生（埼玉医科大学 国際医療センター 包括的がんセンター 腫瘍内科）

白尾國昭先生（大分大学医学部 臨床腫瘍医学講座）

柳原一広先生（京都大学大学院 医学研究科 探索臨床腫瘍学講座）

第4部 討論会「大学腫瘍内科系講座の連携について考える会」

日時：2008年2月8日（金）20時から22時

会場：秋保温泉・佐勘

（仙台市太白区秋保湯元字薬師28）（電話022-398-2233）

主催：東北がんプロフェッショナル養成プラン

共催：橋渡し研究支援推進プログラム

後援：NPO 東北臨床腫瘍研究会

出席者（順不同）

西條康夫先生（弘前大学大学院医学研究科 腫瘍内科学講座）

矢野聖二先生（金沢大学がん研究所腫瘍内科研究分野）

吉岡孝志先生（山形大学医学部 器官機能統御学講座 臨床腫瘍学分野）

佐々木康綱先生（埼玉医科大学国際医療センター 包括的がんセンター 腫瘍内科）

白尾國昭先生（大分大学医学部 臨床腫瘍医学講座）

高後裕先生（旭川医科大学医科大学内科学講座 消化器・血液腫瘍制御学分野）

貫和敏博先生（東北大学医学系研究科内科病態学講座 呼吸器腫瘍学分野）

上野直人先生（米国テキサス大学 MD アンダーソン・がんセンター）

福田 寛先生（東北大学加齢医学研究所長）

添田大司先生（東北大学加齢医学研究所 癌化学療法研究分野）

柴田浩行先生（東北大学加齢医学研究所 癌化学療法研究分野）

石岡千加史先生（東北大学加齢医学研究所 癌化学療法研究分野）

第39回加齢医学研究所シンポジウム 東北がんプロフェッショナル養成プラン

合同シンポジウム

第1部

わが国のがん薬物療法の 課題と将来展望

第2部

大学腫瘍内科の在り方

日時 **2008年2月8日(金) 13:00~16:30**

場所 **勝山館** 仙台市青葉区上杉2-1-50
TEL:022-213-9188

参加費無料

第1部

わが国のがん薬物療法の課題と将来展望

シンポジウム1

がん分子標的治療の時代

シンポジウム2

がんTR推進における諸問題

第2部

大学腫瘍内科の在り方

招 請 講 演

米国における腫瘍内科医の役割

パネルディスカッション

大学腫瘍内科の役割

招待講演者

秋田 弘俊 (北 大)
佐々木 康綱 (埼玉医大)
中川 和彦 (近畿大)
柳原 一広 (京都大)

上野 直人 (MDアンダーソン
がんセンター)
白尾 國昭 (大分大)
貫和 敏博 (東北大)
矢野 聖二 (金沢大)

高後 裕 (旭川医大)
曾根 三郎 (徳島大)
張替 秀郎 (東北大)
吉岡 孝志 (山形大)

西條 康夫 (弘前大)
田村 和夫 (福岡大)
南 博信 (神戸大)
(敬称略)

第1部

主 催：東北大学加齢医学研究所

後 援：加齢医学研究所研究会同窓会、東北がんプロフェッショナル養成プラン

第2部

主 催：東北がんプロフェッショナル養成プラン

後 援：加齢医学研究所研究会同窓会、NPO 法人東北臨床腫瘍研究会

連絡先

仙台市青葉区星陵町4-1 東北大学加齢医学研究所癌化学療法研究分野

TEL. 022-717-8543 FAX. 022-717-8548

世話人 石岡千加史、事務局 柴田浩行 (秘書 門脇真理、星 杏奈、庄司雅子)

参加者内訳

1. 所属別

	大学関係	病院関係	学 生	製薬会社等	プレス等
計	計 47名 (内訳) 東北大 27名 他大学 20名	計 17名	計 16名	計 25名	計 3名
合計参加者人数					108名

2. 県 別

82名参加	3名参加	2名参加	1名参加	
宮城県	青森県 島根県 長崎県	北海道 神奈川県 石川県 佐賀県	岩手県 山形県 埼玉県 茨城県 愛知県 京都府 大分県 鹿児島県 アメリカ	
計82名	計9名	計8名	計9名	
合計参加者人数				108名



第1部シンポジウム「わが国のがん薬物療法の課題と将来展望」開会挨拶
福田 寛先生(東北大学加齢医学研究所長)



第1部シンポジウム「わが国のがん薬物療法の課題と将来展望」講演を聴講する方々



第2部 シンポジウム「大学腫瘍内科の在り方」開会挨拶

菅村和夫先生（東北大学副学長・医学系研究科長）



第2部シンポジウム「大学腫瘍内科の在り方」 招請講演「米国における腫瘍内科医の役割」

上野直人先生（米国テキサス大学MDアンダーソンがんセンター 准教授）



第2部 シンポジウム「大学腫瘍内科の在り方」
パネルディスカッション「大学腫瘍内科の役割」



第3部 座談会「大学腫瘍内科の在り方」